

# 久留米の自然



2005年10月1日

第90号

橋本干拓

2003年・秋

鳥の姿がない干潟は悲しく寂しい

撮 影 松富士将和

## 鳥は環境のパロメーター 有明海の8年が語るもの

有明海水鳥調査報告書・1997年5月～2005年1月

松富士 将和

有明海。5mを越す干満の差が造り出した広大な干潟は、「豊饒の」と形容され、多種多様な生物を育んできた。シギ・チドリ類の水鳥もまた、その種・数ともに傑出し、長崎県諫早干拓、佐賀県大経潟（東与賀干拓）福岡県橋本・大和干拓は、シギ・チドリのメッカであった。が、いまは、僅かに大経潟が残るだけである。

諫早は、締め切り工事が始まり、干潟が干上がると、餌場を失った鳥たちは四散してしまっただけで見る影もない。また、有明海北東岸、筑後川・矢部川下流域の福岡県柳川市橋本・大和干拓は、1973年から1977年頃は、ピーク時には数千羽のシギ・チドリが空を覆った。しかし、1985年の筑後大堰完成後数年を経た頃から、鳥の姿が目に見えて減少し、今は、最盛期の二桁以下の激減となって、鳥のいない干潟となっている。

鳥は、環境のパロメーターである。

有明海の異変、海流が変化し、流れが弱くなり、潮位は上がり、ムツゴロウが川の中流域近くにまで来るような異常さ。鳥が姿を消し、赤潮の発生・海苔の黄変・貝が死滅する状態は10数年位前から始まっている。1985年完成の筑後大堰はその主因のひとつである。流入する雑排水汚染や、三池炭鉱（廃坑）の海底陥没、1極集中型の養殖海苔漁（酸処理）に加え、諫早の閉め切りはそれにとどめを刺すものである。

諫早の閉め切り工事が始まった1997年5月、環境異変をより具体的な裏付けのあるデータとして残そうと有明海水鳥調査を始め、今年春までの8年間の記録を、今夏、報告書にした。ここには、有明海の疲弊の歩みが、鳥の増減と言うデータで明白に表われている。この報告書が有明海の保全・再生に役立つことを切に願うものである。

## 「山汐菜」にふれて

### —その伝承と背景

古賀 幸雄

冬に入りかけると久留米地方では、少し辛味のきいた青菜の漬物「山汐」が出回る。私には欠かせないお菜である。これについて筑後川辺の漬物生産地では次のような由来が語られている。

### 「山汐菜」誕生伝説

江戸時代のある頃、恒例となっている筑後川の大洪水は耳納山地の大雨による激しい山崩れ(当時の文献には「山汐」・「山抜き」とも記される)を伴うことが再三であったが、洪水も治まってしばらく後、川辺で村人が見馴れない青菜が生育しているのを発見した。漬物にすると結構な味で、これが周辺でも栽培され、やがて市場に売り出されるようになったという。その種子はおそらく上流部の山汐の土砂に交って大川を下り、肝心の土地にたどりついたのだろう。

### 江戸時代の耳納山地の主な山汐

『石原家記』その他浮羽郡の旧家の記録によると耳納の山汐は主なものとして4回が記されている。これを大まかに記して見る。

(1)元禄8年(1695)7月4日、「筑後川大洪水、巨勢川氾濫、耳納山筋山汐」とある。

(2)宝永4年(1707)大地震、10月4日夜半、久留米・柳川領所々破損、堀の水ゆり上げ大分死。山辺家震崩れ、死人も有り。この年は富士山噴火(11月23日)があった。

(3)享保5年(1720)6月21日、この日は前日から大雨・雷鳴・山鳴があり、江戸期最大の山汐として知られる。この大雨で有馬氏領分の田畑は半分が荒地となったという。面積では、9,458ヘクタールが川や池になり、または砂入り地・洗い剥地となった。山崩れは大小773ヶ所、流失家屋211戸、山崩れによる埋家・潰家2180戸で、特に現うきは市内では29村が山汐大破、17村が同じく半壊し、現田主丸町分では15村が山汐被害に遭った。星野村の麻生池が決壊、池水がまったく流失したのもこの時である。

(4)享和2年(1802)6月1日。現山

本町耳納辺りから現うきは市流川までの各所の谷が抜き崩れ、山辺筋の村の田畑が所々、荒地となった。

### 庄屋「山汐の害」を語る

嘉永2年(1849)現うきは市吉井町の延寿寺・安富・屋形村を巡察した郡奉行木村三郎の「回村日記」に各村庄屋談として「山汐の害」を次のように述べている。

「安富村、享保5年6月21日昼、大山汐、村方86人中46人死亡。大道(注:豊後山辺道)上は4尺余、下は2尺余埋り、又は享和2年6月1日朝山汐、人家の床より1尺以上。両度の山汐で荒地となり、湿抜など仕立てるが地位回復なし」・・・他村も同様。

なお、吉井町大村の旧庄屋家記録には、南方耳納山の山汐は中間の巨勢川を埋没し、現国道210号線近くまで土流は進んだという。

### 「田普請」のこと

普請とは建築や土木工事をいうが、山汐の被害甚大な旧生葉・竹野郡(浮羽郡)の山辺の村には江戸上記に記す珍しい名の普請がある。前出した「回村日記」には現田主丸町の森部・石垣の庄屋談として「近年、田普請とも返し田とも称し、村々には極々の砂利土で悪地であるが、地底には良き作土が埋まっているので、5・6尺も打ち返し、砂利土を下に入れている」と苦難な労働による良田復活を述べている。結果として以前秋作は1反に米4俵の所、9~10俵に増大する。しかし、打ち返し手間は1反に150人~300人を要し、返し田の底に大きな竹を数本しいて湿抜をよくする」という。山汐のあと再び「田を作る」藩政下の農民の姿が伺える。

最近、田普請されず石の混った表土を無料で整地し、代りに石は持ち帰る庭園業者もいた。事の様相の変化に驚く次第である。



山汐菜

**金丸川環境浄化をめざして、および観察記録****野口勝司**

九州一の一級河川、筑後川は源を阿蘇、大分西部に発し、筑後・佐賀の平野を西に流れ、有明海に注ぐ全長143kmの大河であるが、昭和28年6月末の5日間に亘る連続豪雨で沿岸浸水面積75000ha、堤防の決壊、流失家屋1500戸、死者160名、損害500億円以上の大被害をうけ、約40kmに及ぶ改築工事、延べ250万人の労働力を投入し翌々年3月漸く完成した。長崎の諫早水害はこの4年後のことである。その後筑後川流域の水資源の確保、治水事業の重要性が叫ばれ、昭和60年(1985)現在の筑後大堰が河口より24kmの上流に建設された。

二級河川金丸川は久留米の市街地東部国分の源泉より東西約8kmの河川で筑後大堰下で筑後川に合流している。池町川は筑後川中流、合川より地下導水、南下して西鉄の久留米駅西方より市街域を西に貫通して筑後大堰より1km上流で金丸川に合流している全長4kmの河川である。

筑後川、金丸川の中流で幼年期、少年期を過ごした小生にとっては水泳ぎ、魚介の採取、魚釣り、夏の夜のホタル狩り等昔懐かし思い出が脳裏に刻み込まれている。鮎、鯉、鯰等手にしたときの感触は胸のわくわくする喜びを覚えた。少年時代、たびたび筑後川で釣りの途中夕立にあい、1kmの距離を一目散に家まで走った経験がその後の旧制中学時代の陸上競技選手の活躍につながった思いでもある。

筑後大堰完成して既に20年の月日が流れた。今では大堰、金丸川下流の環境も大きく変わり、流域付近の耕地も溝もなくなり竹林も消え、絶好の釣り場も姿を消して今では市民の体育憩いの場になっている。

河川の拡張工事で生態系にもその影響は大きく、魚介類その他の水生生物の生息場所も変わり、水鳥の採餌域も川の合流点付近に集中している。金丸川中流付近では川幅は以前

の2~3倍に、勾配(1/500)が緩やかなため土砂が堆積しやすく流れを阻害している。更に、絶えない不法投棄、生活排水の流入、水質汚染も回復は未だしの感がある。今後とも水環境浄化には微力ながらエネルギーを投入していくつもりである。行政への働きかけ(地方自治体)等。

最後に金丸川の生態系について感じたままを記してみよう。毎年、梅雨の時期に入ると、川水を塞ぎ止め、灌漑用水で田の面は満水して蛙の大合唱を耳にし、アマサギの群れが姿を現わす事がある。また、時折金丸川の何処からともなく食用蛙の奇妙な鳴き声が聞こえてくる。

豪雨で川の水が増水すると40~50cm程度の大型の鯉の群れが悠々と遊泳している姿は実に壮観だ。水面にはカワトンボ、アメンボの可憐な姿が目に見えることもある。そのほか大潮満時にはゴム堰下まで逆流に乗ってくるハヤ、モツゴ等の小魚群を追ってコサギ、アオサギなどの絶好の採餌場になる。池町川の下流ではカワセミが光沢ある緑色の背を見せながら水面スレスレに直線的に飛翔している姿、目を見張るような美しさを感じる。

川の辺を朝散策すると水に住む生物の世界に接することができる。心の慰みにもなり、このことは自然が授けた妙薬と言えよう。

**城島町江上小裏に「竪穴住居」出現****安元康時**

6月27日、ある会の日帰り研修で、城島町千代島の「川辺りの会」と同会の会員でもある「グループ野火」を訪ねた。

私達が出迎えを受けたのが、なんと古墳時代の竪穴住居そっくりの竈で作られた住居?にはびっくりした。広さは10畳ほどで、真ん中に囲炉裏のようなものがあり、それを囲んで腰を下ろす所がある。会員相互の交流、地域のことを考える場として、時には駆け込み寺的に使われることもあるという。

「筑後川の河川敷をきれいにしよう」というグループ野火の呼びかけに男達も加わって2001年に川辺りの会が誕生。筑後川を愛する人の輪を広げる多彩な活動を毎月行っているが、国土交通省のアダプト制度(環境美化の里親制度)に登録し、毎月第3日曜日の河川敷の清掃活動もその1つである。さらに特筆すべきは、町主催の河川敷整備に向けた懇談会で、「葦の森公園 城島平野・遊びの回廊」の構想をイラストにして提案したところ、会場のみんが賛成し、国や町が整備することになり、六五郎橋下周辺に『葦の森公園』が完成した。さらに本市17年度予算で、3千万円を投じ、干潟や葦原を中心にした自然にふれあえる場所に拡張整備するそうである。

また、同会の活動で本年6月に、この葦の森公園で開かれた、第2回『エツッ祭』会場の入口で紹介された「祭の由来」を要約すれば、『50年かかって汚した川を綺麗にするには、その3倍の150年かかる。六五郎橋下の葦は、赤い六五郎橋、清らかな筑後川と後世に残していくべきふるさとの原風景である。

以前、筑後川の葦(ヨシ)は、「ヨシズ」にするために毎年刈られていたが近年は海外から輸入されるようになり、ヨシ原を刈ることなくヨシ原はゴミの溜まり場となり、有明海で腐りヘドロとなって海を汚染している。そこで、『葦焼きと川辺り交流会』を開き、野焼きして手入れを始めた。春には新しく葦が芽吹き、綺麗な葦が川を浄化してくれる。この時期にみんなで綺麗な葦を觀賞し、筑後川を愛する人の輪を広げ、次代を担う子供達にすばらしい筑後川を残し、今日1日思い切り自然体験をしてもらいたいと思い企画した。』とある。

私は、来年6月の『エツッ祭』には、是非行ってみたいと思っています。本会の2006年度の活動計画にも加えたらいかがでしょうか。



赤い六五郎橋

## 生き物に魅せられて その30

### ムシクイの巻

松永紀代子

2004年9月27日、庭にムシクイがやってきた。グミの枝を渡りながら青虫を捕まえた。少し太めの枝に平行に止まると、枝に獲物をたたきつけ、飲み込んだ。すぐにまた枝を探し回る。あっ捕まえた。たたきつけて、パクリ。そして満腹したのか、コナラの葉の中に入りじっと動かなくなった。5分くらいたつたろうか、また餌を捕り出した。旺盛な食欲だ。

突然パッとお隣の垣根にもぐりこんだ。ヤマガラとシジウカラの群れがやって来たのだ。群れが去ると、また現れた。どうも、他の鳥は苦手らしい。静かになると再び餌捕り。が、ヤマガラの声。パッと逃げ出した。

9月の初めに現われた3羽のムシクイはヤマガラとメジロの群れに混じっていた。ムシクイの種類が違うのか、集団と単独行動の違いか、それとも単に性格の差なのだろうか？

### ひととき 動物笑話 その35 犬の品種

公認されたものでも百種を超え、スイス原産の体高約70cm、体重約80kgで救助犬として活躍するセントバーナードのような大型犬から、メキシコ原産の体高約20cm、体重約1kgで愛玩犬のチワワのような小型犬までいる。最近、消費者金融のTVコマーシャルや「犬猿の仲」を否定するようなチンパンジーとの共演番組に犬が登場している。ところで、次のクイズに答えられますか。

- 1) 流行を追う飼い主に見放された犬は=秋田犬、
- 2) フィラリアに感染していないのに声がかすれる犬は=ハスキー犬、
- 3) 食べてしまいそうな犬は=マルチーズ、
- 4) 相手の不意を襲う獵犬は=紀州犬、
- 5) この犬は誰の犬=ボクサー、じゃこの犬も=チャウチャウ、
- 6) 面白い犬は=?

正解は尾も白い=全体が白いという意味からスピッツやマルチーズ (Y.Y)

## 例会報告

### 第321回例会

#### バードウィーク探鳥会とネイチャーゲーム

米田豊

高良山の森林つつじ公園南側が4年かけて整備され、「四季の森」として自然との触れ合い活動を推進するために各種自然関係の団体と行政機関が協議を積み重ねてきての第1回の行事でした。5月15日当日、天候が心配されたが参加者は36名(一般19名)もあつた。竹の子コースから登ると、尾根の松林からハルゼミの鳴き声が聞かれ、息切れは口グハウスで調整となった。環境保全林での昼食後、ネイチャーゲームに皆はまりました。帰りは後谷コースから下山で、新設されたトイレを早速利用された方もいた。

なお、観察された野鳥はアマサギ、コサギ、ミサゴ、キジバト、コゲラ、ツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、ウグイス、キビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、カササギ、ハシブトガラスの19種で、番外は3種。

### 臨時例会 ホタルの夕べ

橋田沙弓

6月18日(土) 高良内校区公民館で夜7時から行いました。参加者は27名でした。河内先生がホタルの生態の説明をビデオを利用しながら分かりやすく話されたので、みんな、関心深く聞きました。8時近く、外も暗くなったので、現地観察に出掛けました。寺尾谷ごみ埋立地の工事中で年々ゲンジボタルの数が減少していましたが、今年は昨年より、2倍位増加していました。高良内に住んでいた人も感動されておられました。来年も続けたいですね。

#### 「初めて見た、ホタル」

鳥飼小4年 宮原佑平

今日、僕は生まれて初めて本物のホタルを見ました。ピカピカと飛んでいて、すごかったです。たくさん、いっぱい、どこをみてもピカピカしていて、なんびきいたのかわからないです。光るしくみを聞いたけど、ふしぎでなんでひかるのだろう。僕は「わあ、すごい!!」「わあ!!」ばかり言ってました。ビックリしました。まわりもくらくて、手をつないでいないと、お母さんの顔も見えないのに、こわくなかったです。空の星よりピカピカきれいで、天の川の中にいるようでした。

持って帰って妹に見せてあげたかったけど、たくさん見せたいから連れてこようと思います。その時もピカピカ光ってほしいです。がんばれ、ホタル!!がんばれ、虫!まだ僕が見たことない虫たち、ぜったい会おう。

### ホタルと環境

松藤恭一

今回の「自然を守る会」のイベントを新聞紙上で知り、「杉谷」地区のホタルの里を訪れました。割と近場でこんなホタルの乱舞する環境が残されているのを目にし、本当にうれしく思いました。子供の頃は学校の横を流れる小川で毎年ホタルを家族で見に行ったことが心に残っています。地域の都市化や発展又農業の効率化と共に、死にかけた川が増えつづけてきたことが今更ながら残念でたまりません。

現在もよごれたままの中・小の川を見ると心痛めずにはられない気持ちになります。

ホタルの住める川を一つ一つ取りもどす取り組みが進められないかなど一人で思ったりしています。

このイベントに参加し、草の根の活動がなされているのに触れ、皆さんに感謝申し上げる次第です。一老人ですがこの会に入会し、自然を守る活動に参加できることを志しています。

### 「ホタルの夕べに」参加して

権藤純子

6月18日自宅近くの高良内公民館での会に夫婦で参加しました。私達2人共、日頃よりホタルに興味がありましたので、とても楽しみにして出かけました。今まで知らなかったホタルの生息についてのビデオ上映、河内先生の丁寧な説明も加わり、ずいぶん奥の深い学習ができました。

その後、高良川上流に移動してホタル鑑賞。以前、ホタル見物には上陽、船小屋、小城、発心公園とあちこち人に聞いて出かけた経験があります。散歩でも高良川添いを散策する事は時々。今回、高良川上流に先生に連れて行っていただき、びっくりしました。高良内に50年以上も住んでいたのにこれほどホタルの乱舞を見たのは初めてです。遠くにわざわざ出かけて行かなくても、すぐ近くにこんなに感動できる場所があったなんて皆さんにも知らせてあげたいと思いました。一緒に行った主人も、すごい!すごい!の連発でした。

この豊かな自然がいつまでも守られる事を希望して止みません。先日は皆さんと楽しいひと時を過ごすことができ、又、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

## 第322回例会報告

## キノコと自然探訪

6月26日(日)今年も高良台でキノコの観察会を行いました。講師は、森林林業技術センターの金子周平先生で、19名の参加がありました。今年は、なかなか雨が降らない空梅雨で地面も乾いており、キノコにとっては厳しい条件だったようです。金子先生も言われていましたが、柄の上にカサを広げたキノコらしいキノコが少なく、参加者も目をこらして地面や木の幹を捜していました。観察されたキノコの多くは、スエヒロタケやヒイロタケなど、木の幹に扇形に広がるタイプのものでした。毎年参加している方は「キノコ眼」も鍛えられていて、キノコと言っても千差万別、毒々しいもの、繊細なもの様々ですが、今回は21種類を見つけることができました。目に見えない所でひそかに菌糸を伸ばし、ある日突然現れ、刻々と姿を変えていく・・・キノコの不思議を改めて感じる事ができた観察会でした。(Y.M)

## キノコと自然探訪雑感

## 石橋清一

キノコと聞けば、マツタケやシイタケの名前と傘や柄のいつも見慣れたものしか思いつかない。自然探訪とはいえ、キノコ鍋に釣られて参加したというのが本音だろう。

集合場所で高良台の概要を聞いた。荒木町に住んでおり、小中学校時代は遊び場とした処。自衛隊の演習場と赤土が特徴。

昨日までカラカラの梅雨が今日はかなり強く降ったが元気に現地に向かった。最初は中々見つけることが出来なかったが奥に進むにつれて、種々なキノコが発見できた。

採取したキノコは、金子先生に名前を教えてくださいました。「ダケ」とついているが岳・獄に通じるし、キノコは「木の子」と書くと勝手に決め込んだ。木と共生しているもの、木を食べ物にしているもの等キノコの生態もさまざまである。スライドでキノコの種類を見ているうちに時間が過ぎてしまった。結構身近な場所で発見できるキノコもあり、これからの山や野歩きが楽しみになった。

## 高良台自然観察会きのこリスト 金子周平

ヒラタケ科	キヒラタケ
スエヒロタケ科	スエヒロタケ
キシメジ科	モリノカレバタケ アマタケ アシグロホウライタケ アミヒダタケ ウマノケタケ
コウヤクダケ科	アカコウヤクダケ
サルノコシカケ科	アミスギタケ ヒトクチタケ カワラタケ カイガラタケ ヒロイタケ ウスバシハイタケ ベッコウタケ
タバコウロコタケ科	コガネウスバタケ
シロキクラゲ科	コガネニカワタケ
キクラゲ科	キクラゲ アラゲキクラゲ
ヒメキクラゲ科	タマキクラゲ
ズキンタケ科	ビョウタケ



スエヒロタケ



室内でのキノコの詳しい調査

## 第323回例会

## 水辺の自然観察会

米田豊

7月24日に久留米市合川町の百年公園横の高良川(さくら橋付近)で実施したが、当日、周辺はトライアスロンの会場となっていて大変混雑していた。遠方からの親子、六ツ門大学の受講生、子供だけの参加もあり、参加者は26名でした。今回、六ツ門大学で講師を勤める魚類の専門家の橋本哲夫先生の指導を受けました。注意事項を聞いた後、早速網や箱眼鏡をもって川に入り、水の感触を楽しみながら獲物探しに夢中になった。その結果、カワムツ、オイカワ、ギンブナなどの常連に加えてヤリタナゴ、ウグイ、メダカ、トウヨシノボリ、さらに大物のカルムチーまで捕まえ、約20種の多さであった。アメリカザリガニ、スジエビも捕獲し、プラナリア、シマイシビル、その他お馴染みの水生昆虫も観察された。昆虫は国分副会長から、植物は橋田会長より説明がなされた。11時過ぎに筑後川発見館「くるめウス」へ移動し、魚についてより詳しく説明を受けました。



みんなで観察用具を運ぶ



さくら橋下での観察

## 川のかんさつ

福岡市 高取小学校4年 岡部有剛

ぼくは、初めて川で魚をとりました。うれしかったです。ナマズが肉食というのがびっくりしました。ドンコモ肉食でどうもうだというのは初めて知りました。高良川でとう明のエビを何びきかつたのがよかったです。つった時に、クモまでついてきたのがびっくりしました。ザリガニつってた人は、すごかったです。川に行っているいろいろな魚をとるのはすごく楽しかったです。また、今度、やりたいです。深い所があって、びっくりしました。浅い所は、ぜんぜんこわくありませんでした。

## 川のかんさつ

福岡市 高取小学校2年 岡部安敏

ぼくは、川のかんさつに行きました。はじめてだったのでドキドキしました。水にはいったらさいしょつめたかったけどすぐになれました。はじめての魚をとるのは、ワクワクです。ぼくは、ウグイとオヤニラミをつかまえました。はじめてつかまえたのでうれしくて、「ヤッター」と小さなこえでいいました。ぼくがとった魚は、すこし大きめでした。とても楽しかったので、またやりたいです。



橋本先生のお話



カルムチー

## 《行事案内》

### 第325 会例会: ネイチャーゲームと 自然観察会

くるめネイチャーゲームの会と合同で、ネイチャーゲームと自然観察を行いながら、四季の森経由で森林公園まで行きます。

〔日 時〕: 10月16日(日) 9:30~15:00

雨天中止

〔集 合〕: 高良内幼稚園前 9:30 駐車場あり

〔解 散〕: 高良内幼稚園前 15:00

〔参加費〕: 無料

〔持ち物〕: 弁当、水筒、帽子、筆記用具

〔共 催〕: くるめネイチャーゲームの会  
市農林課

### 第326 回例会: 高良山・四季の森 バードウォッチングウィーク探鳥会

春の子育て季節のバードウィークに対し、11月のバードウォッチングウィークは冬鳥たちが訪れ、山から里山に降りてきた鳥たちで賑やかになる頃です。新しく整備された高良山・四季の森の探鳥会は、どんな鳥たちと会えるでしょうか。

〔日 時〕: 11月13日(日) 9:00~14:30

雨天中止

〔集 合〕: 高良内幼稚園前 9:00

〔解 散〕: 高良内幼稚園前 14:30

〔参加費〕: 無料

〔持ち物・服装〕: 弁当、水筒、帽子、筆記用具、あれば双眼鏡など。

〔共 催〕: 日本野鳥の会筑後支部、くるめネイチャーゲームの会、市農林課

### 第327 回例会: 冬の自然観察と豚汁会

冬の自然観察会は、ゆっくり歩きながら、四季の森の生き物を観察します。コナラのどんぐりやシイのどんぐりも見られます。

〔日 時〕: 12月4日(日) 9:30~15:00

雨天中止

〔集合・解散〕: 高良内幼稚園前

〔参加費〕: 200円(実費)

〔持ち物〕: ごはん、おわん、おはし、水筒。

〔共 催〕: 市農林課

## 《事務局だより》

この号の発行は10月だが今書いているのは9月初め。大型の台風14号が接近し、アメリカでのハリケーン被害のニュースに不安を募らせている時である。SF映画の地球滅亡のシーンなどが今や現実となった感がある。郵政民営化についての衆院選も間近で結果はどうなっただろうか。防災に関しても「安全」と言い続けていて、いざ災害に見舞われると「想定外だった」と言う。選挙公約もそんな逃げをせずきちんと実現させて欲しいものだ。誤植の訂正です。前89号、安元康時様投稿の「一日一省エネ」に取り組もうの5行目「三位で52%のロシア」は間違い、「6.2%」でした(52%は次の四位)。申し訳ございませんでした。

再度ホームページを案内します。

「久留米の自然を守る会」ホームページ

<http://www.geocities.jp/kurumenosizen/>

(金原優子)

1. 会員消息(入会)井手成子、宮原佑平(久留米市) 松藤恭一(小郡市)  
(退会)立石峰子、小川巖、古賀章子、三島葉月、内野スマ子(久留米市)

### 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

### 3. 原稿募集

次号91号は平成18年1月1日発行予定です。原稿の〆切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

### 4. 幹事会のご案内

幹事会(定例)は原則として毎月第1水曜日の19:00~21:00まで、西町教育集会所で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(10月5日、11月2日、12月7日、1月11日予定)

久留米の自然

平成17年10月1日 第90号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0851

久留米市御井町1595-9 金原優子方

TEL・FAX 0942-44-1942

印刷(有)プリンティング コガ

TEL 0944-88-0027 FAX 0944-88-0029